

水道紀功碑

人はあやふやな心では物事の成就おぼつかないものだ。逆に、まことのこころがあればどんな困難でも成し遂げられるものだ。山本栄吉さんはまさにそのひとであろう。

長野県北佐久郡五郎兵衛新田村下原は村の北の境にあり、地質は粘土で、流れ来る水は白く濁り泥臭い匂いを帯びている。下原では三本の水路で導いて水田を灌漑し、また地域に幾つか溜池を掘り旱害に備え、そして飲料水として来た。

地域には清らかな泉のようなものがないため、正徳五年（1715）試みに井戸を掘ってみた。五十尺（約15メートル）まで掘ってみたが、湧水に恵まれないため、それ以来この地では井戸を掘ることを諦めてきている。

明治維新以来、文化は日を追って向上し、人々の心の中に衛生思想も普及し、飲料水の良否により寿命の長短がすこぶる大きいことを私たちは知ってきた。

そこで村人たちが集まり、飲料水の改善について相談をしたところ、山本栄吉さんが

「井戸水により清水を下原で得るのは江戸時代の失敗で明らかだ。今若し下原集落の東西の国道沿いにある池の水をろ過し、地中に隧道を施工して各家庭まで導けば良いではないだろうか。今まで使っていた池の水は季節によって生ぬるかたたり、冷たかつたりいつも水温が変わっていた。しかし地底トンネルの中に導けば温度が一定で夏は冷たく、冬は暖かい水が使え、今までの水の苦労が一掃されるだろう。私に思うところがあるのか任せてほしい。私が命がけでこの工事を完成させたい。」

それを聞いて村人たちは衆議一決全てを委ねることとし、明治三十三年（1900）三月十七日から工事が開始され、子息の栄重郎・栄八郎さんもまた父を助けてこの工事に従事した。

明治三十五年（1902）五月三十一日に工事は竣工した。工事は西の池からの地底水道は六二一尺（二〇八メートル）、東の池からは七五〇尺（247.5メートル）にもなった。お陰で以前に比べ素晴らしい浄水が給水されるようになり、村人たちは栄吉さんの大いなるお陰だと大変な感謝をしている。

この工事期間は三か年にも及んだが、隧道工事で落盤事故や、山本親子が工事中、一切負傷しなかったことは、村人を思う栄吉さんの信念の賜物だろう。

栄吉さんが亡くなって今年で十三年目になる。そこで私たちはその功績を讃えて記念碑を建てることにしました。

（碑文の最後に漢詩に）

力の限りに水道を穿つこと三年 工事は無事なり水が清らかだ

この水の恵みで健康が養われ 村も里も永く栄えることは間違いはない

大正一五年（一九二六）八月